

第19回生活科学系コンソーシアム総会 議事録

1. 日時: 2026年5月11日(月) 17:00~18:23

2. 場所: オンライン会議 (Zoom)

3. 出席者 (敬称略)

構成学会 12 学会、16 名

国際服飾学会	新實 五穂 (連絡担当者)
日本衣服学会	團野 哲也 (会長)、薩本弥生 (連絡担当)
(一社) 日本家政学会	川端 博子 (会長)
日本家庭科教育学会	鈴木 明子 (会長)
(一社) 日本健康心理学会	山蔦圭輔 (連絡担当)
日本消費者教育学会	柿野 成美 (連絡担当係)
(公社) 日本食品衛生学会	石井 里枝 (会長)、河野 通宣 (連絡担当係)
(公社) 日本食品科学工学会	上藺 薫 (連絡担当者)
(一社) 日本繊維製品消費科学会	佐藤 真理子 (連絡担当者)
(一社) 日本調理科学会	飯田 文子 (連絡担当者)
(一社) 日本保育学会	戸田 雅美 (会長)、上垣内 伸子 (連絡担当者)
服飾文化学会	玉田 真紀 (会長)、大崎 綾子 (連絡担当者)

生活者視点で健康と暮らしの課題を検討する家政学分科会委員 9名

阿部 栄子、池田 彩子、小川 宣子、佐藤 裕紀子、重川 純子、守随 香
杉山 久仁子、宮崎 陽子、宮野 道雄

欠席者

構成学会3学会

生活経済学会、日本健康医学会、(一社) 日本健康科学学会

家政学分科会委員

大藪 千穂

4. 配布資料

資料1 出席者名簿

資料2 生活科学系コンソーシアム第45回会議議事録(案)

資料3 2025年度活動報告案

資料4 2025年度決算報告案

資料5 2026年度活動計画案

資料6 2026年度会計予算(案)

資料7 2025 年 12 月シンポジウム参加者アンケート(抜粋)

資料8 生活科学系コンソーシアム構成学会名簿

資料9 2026 年度会費納入に関する今後の納入手続きの確認のお願い

資料 10 2026 年度構成学会行事予定表(大会、研究発表会、シンポジウム、フォーラム等)

資料 11 生活者視点で健康と暮らしの課題を検討する家政学分科会 報告「子どもの生活に
焦点を当てた子どもの育ちと子育てについての学びの充実に向けて」

守髄香分科会委員の司会のもと、会議に先立ち、議事録は大崎連絡担当(服飾文化学会)が作成することが伝えられた。

5. 議題

(1) 生活科学系コンソーシアム第 45 回会議議事録(案)の承認(資料2)

柿野先生より、資料2に基づき説明があった。宮野委員より、「報告」の項目が5ではなく6であるとの指摘があり、修正することを前提に承認された。

(2) 2025 年度活動報告案

杉山会長より資料 3 に基づき説明があり、承認された。

(3) 2025 年度決算報告案・会計監査報告

重川委員より資料 4 に基づき、会議費は全てオンラインで実施されたため、シンポジウムは日本学術会議の主催となったため支出がなかったことなどが報告された。続いて、阿部監事より会計監査報告がなされ、承認された。

(4) 2026 年度活動計画案

杉山会長より資料 5 に基づいて説明があり、承認された。

(5) 2026 年度予算案

重川委員より資料 6 に基づいて説明があり、承認された。

(6) 第 14 回シンポジウムについて

杉山会長より 2025 年 12 月のシンポジウムのアンケート(資料7)が次回のシンポジウムの参考資料として提示された。また、2024 年の第 13 回シンポジウムも「子育て」をテーマとしていたこと、第 10~12 回は「With/Post コロナ社会と人の生活」をテーマで開催したことなどが説明された。

生活科学系コンソーシアムとしていろいろな学会が参入できて、様々な角度からテーマに迫っていくことのできる大きなテーマを掲げる必要があるのでは、高齢者が健康に過ごすための支援やSDGsの視点など、これからの生活を支える新しい技術・研究の紹介や、生活をどう豊かに維持していくのかについて意見交換ができてよいのではなどの意見が出された。その後に各構成学会から下記の意見が出された。

日本衣服学会 團野会長: 本学会としては、どのようなテーマであっても衣服の環境学的なテーマは専門家も多いことから何らかの形で貢献することができる。

家政学会 川端会長:子育ても重要、高齢者はいろんな分野からアプローチできる。今問題になっているものであえて挙げるならば AI と生活も考えられる。

家庭科教育学会 鈴木会長:高齢者と AI は社会生活の中では大事なテーマ。学習指導要領の改訂時期なので、いずれも重要なテーマとなるので関心を持つ方が多いのでは。未来の生活を見据えた技術も AI と接点がある。

日本食品衛生学会 石井会長:いずれのテーマも食品衛生の立場から、高齢者であれば機能性食品の研究の紹介などで携わることができる。

日本保育学会 戸田会長:今週末、東京大学主催の大会の国際シンポジウムで気候変動の時代の保育を取り上げる。気候変動も面白い、SDGs にも近いのかもしれない。

服飾文化学会 玉田会長:私見ではあるが、学会には歴史研究、子供服、メディア研究の研究者などがいる。例えばメディアと生活は、衣食住すべてに関わってくる内容になると思う。他には、地域産業の技術や材料の問題の研究もある。衣食住という横断的なテーマであればメディア、サプライチェーンの問題もあり得ると思う。

日本食品科学工学会 上菌先生:先駆的な技術の話が出ていたが、フードテックに関してのシンポジウムは開いている。持続可能な商材の提供、ロボット化人手不足改善(高齢者対応)、豊かで健康な食生活(低アレルギー)、ヘルスケア(パーソナライズフーズ)等多岐に食品関係の領域的にはご協力はできる。

日本調理科学会 飯田先生:前回のシンポジウムの内容を深めるということであれば講師候補者であった露久保先生にご意向をうかがって推薦してもいい。高齢者やSDGsに関する研究者もいるのでどういうテーマでも対応できる。

日本繊維製品消費科学会 佐藤真理子先生:3月のセミナーで「子ども服のこれからを考えるー身体発達の理解と社会課題への取組ー」を実施したので、明言はできないが子ども服関連で演者の推薦も検討できる。

国際服飾学会 新實先生:以前からの「子育て」をテーマとして、学問領域の違う方に話をさせていただくことや、年齢(高齢者も含む)をテーマにしてもよいのではという意見があった。

日本消費者教育学会 柿野先生:今出されているテーマは消費者教育と深いかわりがある。AI(ダークパターン)、高齢者(消費者被害からの地域での見守り)、サステナビリティ(気候変動、エシカル消費)などいずれのテーマについても協力できる。

日本健康心理学会 山蔦先生:健康心理学は学際的な学問なので、いろいろなテーマと絡み合っているいろいろなことができるのではと考えられる。持ち帰って検討したい。

以上の意見を踏まえ、杉山会長より次の提案があり、了承された。今日の会議で出された意見を整理して、テーマをいくつか示し、アンケートを取って、9月までにシンポジウムの内容を絞り込むことにしたい。ひとつのテーマで多くの学会が参画ができる様であれば、コロナの時のように複数回シリーズで行うことも考えられる。そのために、アンケートを6月上旬を目指して作成し、連絡担当者あてに送り、その集計結果をもって今年度のシンポジウムの大まかな内容を決定する。

(7)その他

なし

6. 確認事項

(1) 構成学会の会長及び連絡担当者の氏名、連絡先等について

資料8に基づき、今後構成学会名簿の記載内容について変更がある場合には、生活科学系コンソーシアム事務局のメールアドレスに連絡することが確認された。

(2) 2026 年度会費について

重川委員より、資料9に基づき、今年度の会費について告知があった。口数について6月10日までに重川委員へ連絡をするよう確認された。なお、連絡担当者が変わる場合には、現在の担当者から新しい担当に連絡してほしい。会費は9月末までに納入いただきたい。

(3) 構成学会の2026 年度行事予定について

杉山会長から現時点で連絡のあった行事予定を資料10に掲載しているとの説明があった。一部掲載漏れがあったことから、最終版は会議後に送付されることが確認された。また、この内容はHPの構成学会行事予定表に掲載する予定であることが確認された。

(4) その他

なし

7. 報告

(1) 構成学会から

資料10を参考にしながら、12学会から今後の学会活動の予定について報告があった。

(2) 生活者視点で健康と暮らしの課題を検討する家政学分科会から

杉山会長より、日本学術会議健康・生活科学委員会生活者視点で健康と暮らしの課題を検討する家政学分科会として、5月8日に報告「子どもの生活に焦点を当てた子どもの育ちと子育てについて」(資料11)を発出したことが報告された。この報告は、12月のシンポジウム終了後にまとめを行い、日本学術会議内で査読が入り、先週金曜に日本学術会議HPで公表され、本日記者発表が行われたことが説明された。

さらに、日本学術会議は今年10月から法人化されることになっており、今それに向けて動いていることが報告された。

次回会議日程

9月開催を予定している。

以上